

文字見本

一八六〇年(万延元年)に奉納された大絵馬
萱場・須賀神社

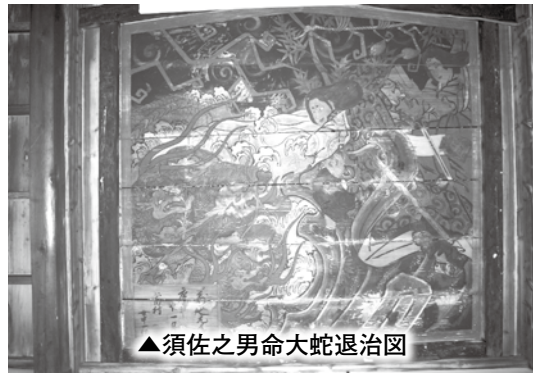
No.364

平成31年4月

千葉県最古の絵馬は、大網白里市・懸神社の「牛若丸と弁慶図」だ。裏面には土気城主酒井伯耆守康治が一五七九年(天正七年)十二月二十六日に奉納した旨の銘がある。その次は鴨川市・薬王院の「武者絵図」で一六一一年(慶長十六年)。そして、長南町・称念寺の「鷹図」一六八五年(貞享二年)と続く。市内最古は真名の天照大神社にある「曾我兄弟仇討ち図」一七三三年(享保十七年)と考えられている。天照大神社にはこのほかにも「天岩戸図」などの市指定文化財の大絵馬が残されている。

さて、これらに比べると新しいが、萱場・須賀神社には「須佐之男命大蛇退治図」がとても良い状態で残されている。この絵馬は一八六〇年(万延元年)に萱場村の女性たちによって奉納されたものだ。タテ一八三センチ×ヨコ一六三センチ、杉板横六枚

接ぎで山型の額に納められた大作である。須賀神社の祭神でもあるスサノオには、怪物「八岐大蛇」を退治し、後に妻となる稲田姫を救う英勇譚があるが、絵馬の場面は、今まさにスサノオがオロチに挑むところである。波は荒れ狂い、稲妻が走る。オロチの八つの頭が見え隠れする。描か



▲須佐之男命大蛇退治図

れてから百五十年以上経つが、絵の具の大きな剥落や目立つた退色もなく色彩も鮮明、ほぼ完全な状態で残されている。スサノオの顔は赤みの肌色で彩色され、紅潮している様が見える。背後の稲田姫は、戦いの間は櫛に変えられているので、透明人間として描写さ

れている。そのため、肌色のアウトラインだけで肌の彩色はない。稲妻・波・八個の龍頭・主人公が巧みに配置され、大胆で躍動感のある構図になっている。江戸絵画のエッセンスを間近で感じる事ができる完成度の高い逸品だ。

大絵馬はそれ自体が絵画作品としても扱われ、作者銘が入る場合も多いが、この絵馬の作者は不明。江戸には絵馬屋があったので、そこで購入した可能性もある。絵馬が六分割なのは、運搬を考えてのことかもしれない。また、葛飾北斎が、一八〇三年(文化三年)に旅の途中に立ち寄った木更津で「富士巻き狩り図」の絵馬を制作したように、旅の絵師が偶然やって来て制作したことも考えられる。

いずれにせよ、江戸絵画の高いレベルの作品を、現代の私たちがとても良い状態で見ることができるとは大変幸せなことである。現状の良い状態がいつまでも続くことを願っている。

茂原市文化財審議会委員

齊藤 望

文芸コーナー

短歌

寒風もわが身の冷えに堪えかねて

椰子の葉そよぐ島へと急ぐか

堤 三木志

俳句

冬日和空高く舞う凧の糸

高橋 良昌

朝起きて窓越しに見る雪ダイヤ

秋葉智恵子

川柳

戦争のリスクは見えぬ両巨頭

今井ひさし

時差の無いニユース世界を駆け巡り

風間 敬造

この高さまで来ましたと災害地

塩田 加門

五輪へのボランティアへと語学塾 高橋由紀子

擬音には柳行李と豆用意 高山 英子

元号が変わるまで居てお腹の児 千葉加津子

渋皮をむいて本音の自己主張 福田 研治

百歳を超えても川柳は止めぬ 吉野千枝子

平成のなごりを惜しむ新年度 鳥海 久子

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。
※俳句、短歌、川柳の原稿送付先
〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。